

253地区

鶴岡ロータリークラブ



創立 昭和34.6.9 承認 昭和34.6.27
事務局 鶴岡市馬場町 鶴岡商工会議所内
電話 0235 (24) 7711
例会場 鶴岡市馬場町 産業会館5階ホール
例会日 毎週火曜日 午後12:30~1:30

第1504回例会 会報

1989 (平成1.4.22) 天候 晴

幹事 若生恒吉
会長 市川輝雄
クラブ奉仕 佐藤 昇

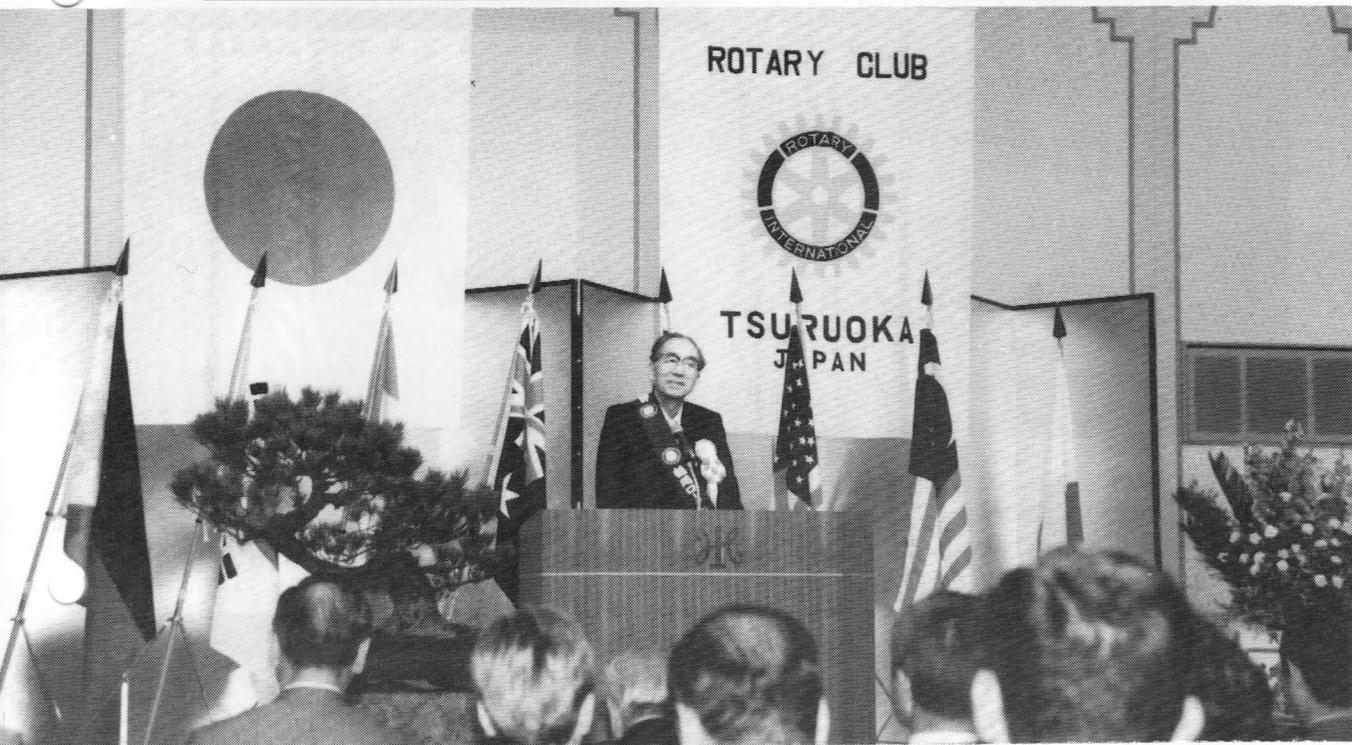
ロータリーに活力を
あなたの活力を
PUT LIFE INTO ROTARY-
YOUR LIFE

職業奉仕 佐藤 衛
国際奉仕 松田士郎
社会奉仕 迎田 稔
青少年奉仕 碓水節雄

出席報告:会員 89名 出席 79名

出席率 89.33% 前回出席率 78.67%
修正出席 75名 確定出席率 86.67%

鶴岡ロータリークラブ 創立30周年記念式典 盛大に開催



記念式典で挨拶する三井 徹実行委員長



司会進行 佐藤元伸君

鶴岡ロータリークラブ創立30周年記念式典が22日東京第一ホテル鶴岡で開かれました。式典は予定通り、11時から同ホテル鶴岡の間で、三井賢二式典委員長の開会のあいさつで始まりました。実行委員会を代表して、三井 徹委員長が「温故知新の精神に基づき、30周年が一つの礎となり、未来に向かってさらに努力を続けたい。臨席に際し友情とそこから生まれる多くのものを期待します。」と歓迎の挨拶を行いました。続いて市川会長が「世界の平和と奉仕の理想のもとに、我がクラブは賛歌をうたい上げてきた。21世紀に向けて、さらに地域社会に奉仕するR.Cの創造を」と挨拶しました。式典はとどこうりなく無事終了致しました。

“ 一歩進んで姿勢よく ” 充実のロータリーライフを。

記念式典

登 録	10:00~11:00	鶴の間
点 鐘	11:00	
司 会	佐藤元伸	
開 会 の 辞	式典委員長 三井賢二	
国 歌 斉 唱	ソングリーダー 川上栄樹	
ロータリーソング (奉仕の理想)	ソングリーダー 川上栄樹	
来 賓 紹 介	クラブ会長 市川輝雄	
参加クラブ紹介	クラブ会長 市川輝雄	
物故会員に黙禱		
歓 迎 の 辞	実行委員長 三井 徹	
会 長 挨拶	クラブ会長 市川輝雄	
感謝状贈呈	クラブ会長 市川輝雄	
表彰状贈呈	クラブ会長 市川輝雄	
記念事業発表	記念事業委員長 風間真一	
寄贈目録贈呈	クラブ会長 市川輝雄	
感謝状贈呈	鶴岡市長 斎藤第六殿	
来 賓 祝 辞	R.I.253地区ガバナー 吉田仁殿	
	山形県知事 板垣清一郎殿	
	鶴岡市長 斎藤第六殿	
	鹿児島西R.C会長 外西寿彦殿	
	台中港区R.C会長 高源桂殿	
祝 電 披 露	クラブ幹事 若生恒吉	
閉 会 の 辞	実行副委員長 小池繁治	
点 鐘		
諸事おしらせ	クラブS.A.A 荘司俊治	

(式典終了予定時刻 12:20)

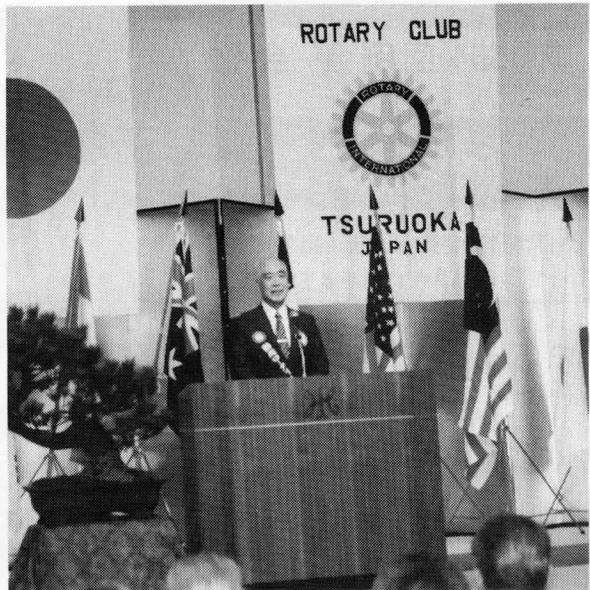
~休 憩 (5分間)~

記念講演 12:25~13:25 鶴の間

演 題 敬天愛人を実践した
南州翁と庄内高士

講 師 鹿児島経済大学講師 鮫島志芽太先生
西郷南州顕彰会副理事長
講師紹介 実行委員長 三井 徹

祝 宴 13:40~15:40 鳳凰の間



開会の辞をのべる 三井賢二 式典委員長



歴代会長・幹事の表彰



3代目ソングリーダー 川上栄樹君

記念講演



記念講演「南洲翁と庄内高士」

鹿兒島西R.C 鮫島 志芽太

日本はいま、政治混乱で大きく揺れている。その要因は政治家がエゴイズムの淵に落込んで、人々の信頼をなくしたからである。

「敬天愛人」とは、私利私欲を越えることだ、と私は解する。欲を捨てると、道理が行えることを教えているのである。漢の大儒・董仲舒はいわく。「道の大原は天より出づ…天は生物（ものを生む）を以て心とす…人は天の心を以て生れる…その徳を仁という。仁は即ち愛の理である…」と。

南洲翁は、時代の大変革期における人間社会の矛盾回利害の激突を調整、統一して、明治維新を成就させた。それが出来たのは、常人の体験しない辛酸の中で、克己の学習を重ね、私利私欲を越えていった翁の人格に、人々が魅せられたからであろう。その「理と行」は、死と貧と冤罪の中から生れたものである。

庄内の高士達は、南洲翁のその「理と行」が、わかったのである。共通の哲学があったのである。

庄内藩は、維新の東北戦で、最期の反撃勢力として薩摩隊と戦った。降伏処理で、意外にも寛大な処置を受け、所替などもなかった。それが南洲翁の指示によるものだったことが、後でわかった。

「道の順逆を知って帰順した以上、兄弟も同様でごわす…勝者が尊大になっては王師とはいえぬ」

これが、寛大な処置に反対する人たちへの南洲翁の言葉だった。以後、かつての敵対者たちに「道の交わり」が、1500キロを越えて実現した。白本武士道の花の結実といえよう。

明治23年、庄内の高士たちが、死をかけて出版・配布した『南洲翁遺訓』は、「敬天愛人」教の教典であり、南洲翁と庄内高士の心志感応の史碑である。

(庄内日報より転載)

鶴岡ロータリークラブ

創立30周年記念

西郷南州「敬天愛人」碑建立



斎藤市長のあいさつ

朝日きらめく 内川の近く
敬天愛人の碑は目覚める
天地自然の真理を敬まい
他人を愛することを知らしめよう。

真昼 藩校致道館をのしにみた
若き俊秀が続々と門に入ってゆくのを
庄内が南州の大度量に心酔し
南州が庄内の信義を受した日々を。

星降る夜 人々の心に
敬天愛人の灯りをともし
大いなるタブの木の下
碑は静かに眠る。



登録をする台中港区R.Cの皆さん



受付の“美女”



盛大な祝賀会